

活動報告

団体名	BHNテレコム支援協議会
活動名	熊本地震仮設団地住民の地域コミュニティ形成のためのICT利活用支援活動
活動期間	2018年4月～2019年3月
活動の成果	<p>第5次助成期間（2018年4月1日～2019年3月31日）に入り、仮設住宅団地に住む多くの被災者が、災害公営住宅や自宅再建を果たした戸建住宅へ移り住む段階に本格的移行しました。この段階では、「既存仮設住宅団地内での地域コミュニティ維持活動」、「復興地域での新しい地域コミュニティ形成・活性化活動」の両面を考慮して取り組みました。</p> <p>支援活動の実施に際して BHN テレコム支援協議会は、仮設住宅団地で生活している被災者が主体的に参加・取り組めるような工夫として、最初から熊本シニアネット（KSN）を地元連携組織に選定して取り組みました。KSNのメンバーの多くは熊本地震により何らかの被害を受けております。そして、高齢者が中心となって活動している組織です。特に、シニア情報生活アドバイザー資格を保有するITリーダーの皆様に参加していただき熊本地震被災者支援活動チームを編成しました。このような被災者と同じ立場の人達による定期的な巡回設備点検・巡回ICT活用相談そして巡回出前パソコン研修は、心から意思疎通を図ることができる信頼し、本音でなんでも相談できると仮設住宅団地で暮らす被災者の皆様から大変好評でした。</p> <p>BHN 熊本事務所では、支援活動実施に際しては支援対象の市町村毎に「エリアマネジャー制度」を採り入れ、市町村毎にエリアマネジャーを固定して日々の支援活動を実行しています。エリアマネジャーには、「支援活動の中核事業を実行するコアメンバー」と「遠隔地被災地市町村に住む遠隔地支援活動協力メンバー」で構成しました。</p> <p>このエリアマネジャー制度の取り組みは支援活動当初から開始し、現在まで同一エリアマネジャーのまま支援活動を継続しました。この取り組みは、地元行政部門、地元地域支え合いセンター、そしてなにより当該仮設住宅団地住民・自治会役員の方との信頼関係が日々強固なものとなり、いろいろな要望・相談が気軽に寄せられる良好な関係を長期間に渡って維持することができました。</p> <p>BHN 熊本事務所では、「現地支援活動コアメンバーによる毎週定期ミーティング」を開催して、互いにきめ細かく情報交換しました。支援対象市町村毎の事情に合わせてきめ細かな支援活動を行うために、全員で稼働調整をして対処しました。</p> <p>更に、設置した ICT 設備に関する「共通の技術課題」（パソコン OS ソフト更新、パソコン故障修理、プリンター定期点検故障修理、Wi-Fi ソフトウェア更新、ICT 機器設置力所変更等）には技術専門担当を予め定めて対処しました。</p> <p>「パソコン研修」は、実施希望が寄せられた西原村・仮設団地及び御船町・ふれあい広場仮設団地で継続的に実施しました。「公民館を使った被災者向け集合型パソコン研修会」は、熊本市・東公民館を活用して定期的の実施しました。「ICT 機器と組み合わせた BHN 熊本 ICT 健康サロン」は、益城町・テクノ団地、南阿蘇村・室南出口仮設団地及び岩坂仮設団地において定期的の実施しました。いずれの活動も大変好評でした。</p> <p>県域全体を対象とする広域被災地に対し、「ICT 技術活用型熊本地震被災者支援活動の実践」を通じて、多くの被災者支援事業ノウハウを蓄積することができました。</p>

	<p>避難所フェーズでは、益城町、嘉島町、御船町等3町6カ所向けにICT支援活動を実施しました。特に、被災者住民自身が代表者となって避難所運営を実施した益城町・益城中央小学校避難所（吉村静代会長）向けに、「避難所被災者自主運営モデルを支えるICT支援活動実践法を確立すること」が出来ました。</p> <p>仮設住宅フェーズでは、支援対象仮設住宅団地集会所等（熊本市、益城町、南阿蘇村、西原村、嘉島町、御船町、及び甲佐町）約50カ所向けにICT支援活動を実施しました。特に、「エリアマネージャー制度導入」、「現地支援活動コアメンバーによる毎週定期ミーティング開催」、「巡回設備点検・ICT活用相談及びパソコン研修」、「被災地向けドコモおくダケWi-Fiアクセスポイント活用」、「上記ICT機器と組み合わせたBHN熊本ICT健康サロン開催」及び「益城町・テクノ仮設 歩け歩け大会開催」によって、「仮設住宅フェーズにおけるICT支援活動実践法を確立すること」ができました。</p>
<p>寄付者へのメッセージ</p>	<p>BHNテレコム支援協議会が実施している「熊本地震仮設団地住民の地域コミュニティ形成のためのICT利活用支援活動」の目的は、ICT活用面から、被災者の自立と仮設住宅団地を起点とする地域コミュニティ形成・活性化を目指して、被災者に寄り添いながら地道に・継続的に、熊本地震被災地域を支えていくことです。</p> <p>パソコン・プリンター・Wi-Fiアクセスポイント等に貼った赤い羽根ロゴマークは、全てを結ぶ「絆」として、熊本地震被災者を勇気づけています。貴重なご寄付をいただきありがとうございました。</p>

(活動のようす)



